

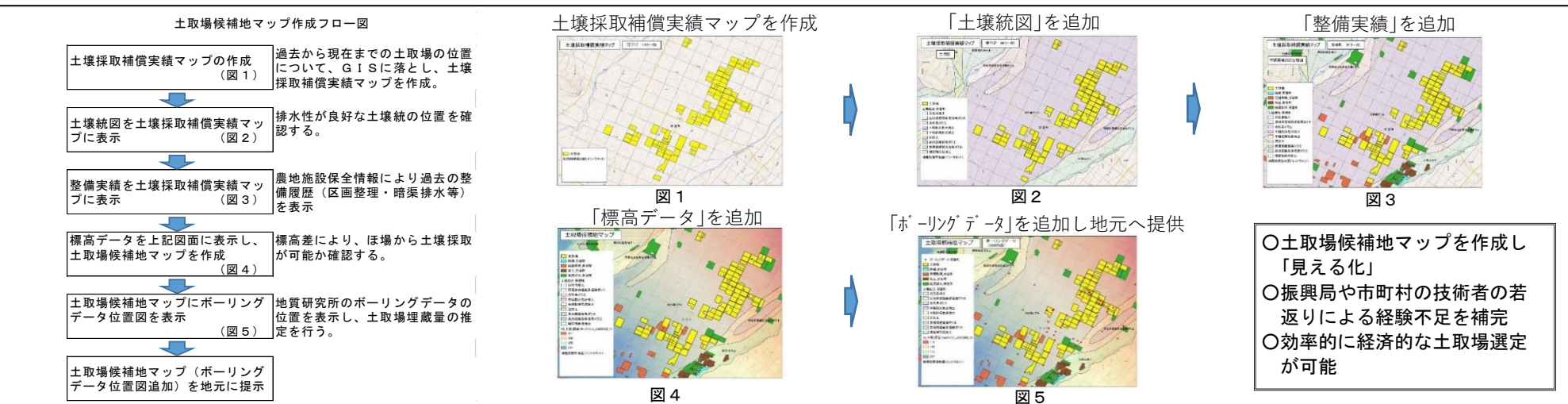
## 「北海道公共事業コスト構造改善プログラム」 【施策9 計画手法の最適化】

### GISデータを活用した客土土取場候補地の調査

**事業名：**畑地帯総合整備事業

**概要：**客土の整備には、低コスト（近場）で確保できる土取場の選定が重要。従前は地域に根付いた技術者によるノウハウにより選定し確保してきたが、近年は若年化が進み地域における技術的蓄積が失われつつある。このため、これまでの技術的蓄積に加え、新たに有効なデータを集約し、GISを活用した基礎資料を作成することで低コストとなる土取場確保の一助とする。

**効果：**地元担当者の負担軽減、蓄積資料（紙）のペーパーレス化、土取場選定経過の可視化

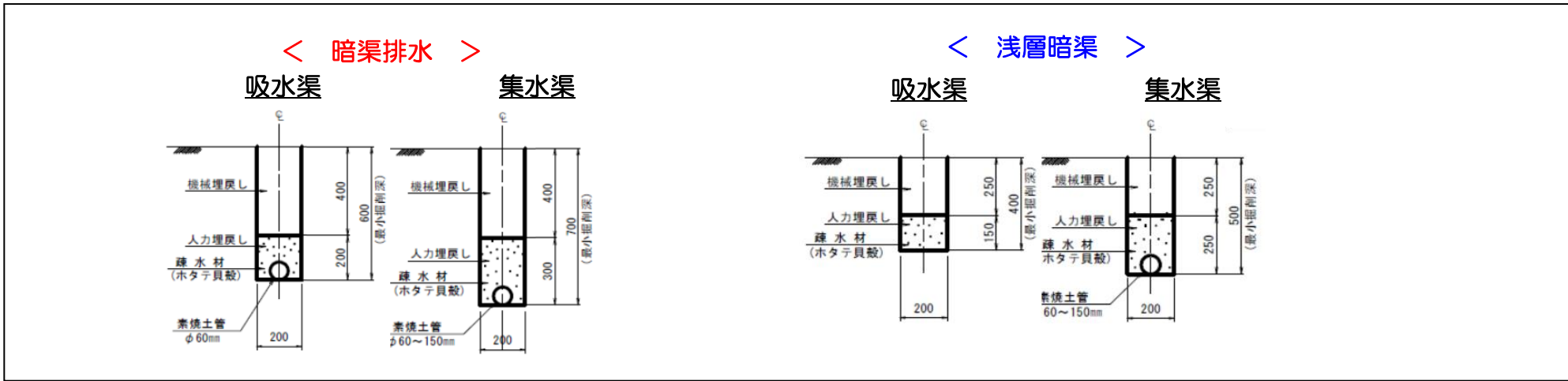


「北海道公共事業コスト構造改善プログラム」  
 【施策10 設計方法の最適化】

## 永年草地の浅層暗渠によるコスト縮減

**事業名：**草地畜産基盤整備事業  
**概要：**イネ科牧草を主体に営農されている永年草地のほ場で、地下水排除を必要とせず、降雨後での地表面水の滞水排除のみを解消させる排水対策。  
 【従来】通常暗渠 → 【今回】浅層暗渠

**効果：**吸水渠にて、管を用いず、浅い埋設深（60cm→40cm）で実施することで、コスト縮減が図られる。  
 【従来】2,900千円/ha ⇒ 【今回】1,400千円/ha （改善額1,500千円/ha、改善率52%）



「北海道公共事業コスト構造改善プログラム」  
 【施策10 設計方法の最適化】

## 盛土工による残土の有効活用について

**事業名：**中小屋温泉地先 小規模治山事業  
**概要：**盛土材採取箇所の見直し  
 【従 来】土砂バンク及び購入土による盛土工の施工  
 【今 回】工事現場に近隣する町指定の土捨場から盛土材を流用

**効 果**  
 他の土砂プラントより現場に近隣する町指定土捨場から盛土材を確保したことによりコストの縮減が図られた。  
 直接工事費 【従来】578千円 → 【今回】420千円  
 （改善額 158千円 改善率27%）



「北海道公共事業コスト構造改善プログラム」  
【施策10 設計方法の最適化】

## 現地発生材を有効利用した筋工の採用

工事名：旭地区 保安林改良工事

概要：筋工の施工資材（横丸太）の見直し

【従来】購入丸太 ⇒ 【今回】森林整備工事で発生した現地材

### 効果

購入丸太の使用から工事で発生した伐採木を使用することでコストの縮減が図られた。

【従来】直接工事費 390千円 ⇒ 【今回】310千円  
(改善額 80千円 改善率 21%)

【従来】



【今回】



# 具体的施策個別事例（令和3年度）

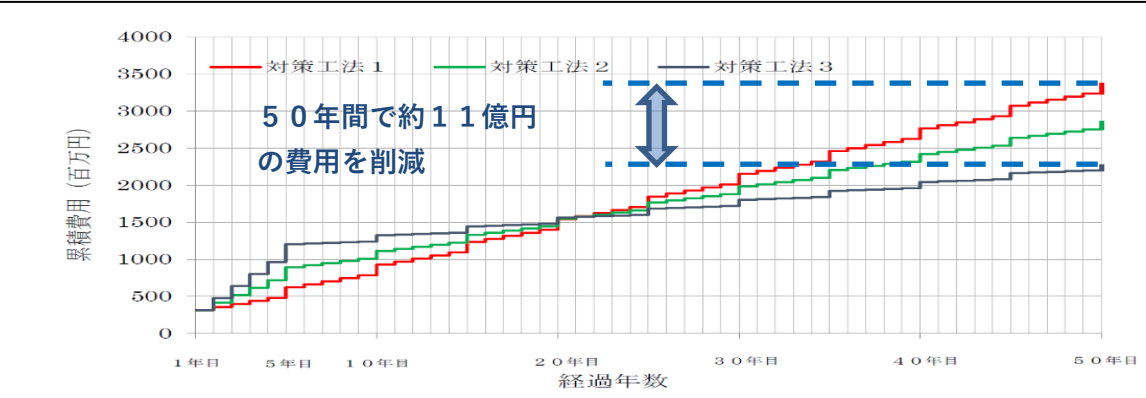
様式2

「北海道公共事業コスト構造改善プログラム」  
【施策11 合理的な設計の推進】

## ライフサイクルコストを考慮した合理的な設計の推進

**工事名：**頓別漁港農山漁村交付金工事  
**概要：**漁港の基本施設である航路の機能を維持する手法について、50年間のライフサイクルコストを算定し、最適な手法を選択することで事業コストの縮減が図られたもの。  
**【従来】** 堆砂の度に維持浚渫を実施

**効果：**最適な手法の導入により、事業コストを縮減。  
**【従来】** 3,400百万円 ⇒ **【今回】** 2,300百万円（評価期間50年）  
（改善額1,100百万円、改善率約32%）



# 具体的施策個別事例（令和3年度）

様式2

「北海道公共事業コスト構造改善プログラム」  
【施策18 公共事業等における新技術の積極的活用】

## アスファルト舗装の補修クラック抑制舗装を採用

工事名：金山幾寅停車場線舗装（構造改良）工事

概要：アスファルト舗装の修繕

【従来】クラック処理＋オーバーレイ工法

効果：アスファルト舗装の低温クラック（ひび割れ）が抑制されることによるライフサイクルコストの減  
【従来】15,861千円 ⇒ 【今回】9,797千円 ※施工面積3,110㎡、評価期間20年  
（改善額6,064千円、改善率40%）

